

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	<p>・教育目標を強く意識して日々努力する。保護者が意識できるよう保護者会等や学校便りで伝え、家庭にも協力を得る。地域とも連携をさらに強めていく。来年度も小中連携にも力を入れていく。</p>	<p>学校教育目標の具現化に向け、「目指す生徒像」「目指す教職員像」「目指す学校像」に迫ることができる。</p>	<p>生徒に寄り添う →時間に制約が多い中だったが、生徒に少しでも寄り添えられるよう努めた。</p> <p>わかる授業 →常に改善し続けるよう努める。</p> <p>地域を愛する →コミュニティスクールに関して、外部講師を招き校内研修会を実施した。</p> <p>一部、共通理解に課題があったとの意見があった。また、知・徳・体のバランスのとれた教育課程の実施をするよう更なる授業改善と道徳教育の充実を図る必要がある。</p>	<p>・保護者への「教育目標や経営の重点に向けた教育を推進している」という問いに対する肯定的評価は85%、「目指す生徒像を意識した指導をしている」という問いに対する肯定的評価は83%を示している。この数値から、本校の教育活動は、多くの保護者から理解を得ていると思われる。さらに、生徒の自主性を育てるために、職員がもっと話せる雰囲気をつくり、指導目的の再確認や指導方法の共通理解を図りたい。</p>	<p>○目指す生徒像・学校像すべてにおいて考えを出し合い話し合える関係であることが目標に近づく一歩だと思える。</p> <p>○目標は全員で共有するのが大事だと思います。</p> <p>○教育目標の見直しを図ることも必要である。</p>	<p>○学校教育目標の具現化に向けて、今後もさらなる研鑽を積んで、全教職員が意識して取り組めるようにしていきたい。</p> <p>○「目指す生徒像」実現のため、具体的な手立てについて共通理解のもと進めていきたい。</p>

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育課程・学習指導	<p>・わかる授業を実践する中で、基礎基本の徹底を図り、学習に対する意欲を喚起する。</p>	<p>生徒に学習課題を明確に提示している。「わかる授業」を展開するとともに、基礎学力の定着に努めた。</p> <p>基礎基本が身につくよう、指導法に工夫を加えて実践している。</p> <p>個に応じた指導を適宜行い、一人一人の生徒の学習意欲を引き出している。</p>	<p>基礎基本の確実な定着とわかりやすい授業の工夫に努めた。定期テスト前の「学習会」だけでなく、学習優先日を機能させられる取り組みがあるという意見があった。</p> <p>基礎的・基本的内容が身につくよう指導している。</p> <p>学習意欲のない生徒を含め、個人差が大きく生徒一人一人に応じた指導が十分ではない。毎日の「振り返り」を導入し、「授業の振り返り」「生活の振り返り」を実施し、次年度の公開研究に着手している。</p>	<p>保護者から最も求められることが、学力の向上である。わかる授業や一人一人を大切にすると授業が実践できるよう、指導内容を工夫し、よりよい指導方法に努めることが第一である。今後も、全職員で「わかる授業」を実践し、各教科で研修を行い、教師の授業力の向上に努めていく。教科部会も授業のコマに入れ、授業の検討も行っていく。</p>	<p>○授業がわからないと生徒のやる気が高まらないので、わかる授業を徹底し、改善を図り、わかる授業の実践に努めてほしい。</p> <p>○基礎学力の充実のため補習などが行われるといいと思う。</p>	<p>○引き続き学習指導を充実させていきたい。教科部会を中心に指導方法の工夫や学習指導要領の観点に則した教材研究や評価材料を検討し、研鑽を積んでいく必要がある。</p> <p>○さらに基礎的な知識が習得できるよう検討していきたい。</p>



全管理		危機管理マニュアルが活用され、職員・生徒ともに危機対応能力を身につけている。	危機管理マニュアルは見直しや再確認を行ったが、実際に動けるかは訓練が必要。職員室に危機管理マニュアルを掲示した。9月に実施した学校と地域との共同防災訓練についてはとても効果が上がった。そのため、次年度以降も継続したい。	訓練の方法や回数の見直し、様々な危機管理に対する教職員の訓練やシミュレーション等を行い危機管理能力を高める必要がある。	観点では共助の精神が重要である。地域での防災訓練を計画している。中学生は、貴重な存在であるので協力していただきたい。	環境を見直す。災害での防災対策を再検討し、避難訓練の在り方を見直す。地域の一人としての防災や安全についての意識を向上させていきたい。
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健安全計画に基づいて子供の健康管理と保健指導の徹底を図る。</li> <li>栄養指導を充実し、体力の向上と健康の増進を図る。</li> </ul>	学校保健安全計画に基づいて、子供たちの健康管理、保健指導が行われている。	養護教諭を中心に学校安全保健委員会の実施など保健指導を計画的に進めることができた。	けがや体調不良の生徒への対応は、家庭連絡も含めて概ね適切にできているが、常に全職員で生徒の様子や状態に気を配って、素早い対応をしていきたい。すぐに家庭と連絡がつかないことがあるので対応を考えたい。健康診断の意義や持ち物などについて今後も保健便り等活用していきたい。給食等でのマナー指導も必要である。また、食は学力の向上ともつながることである。規則正しい生活の中で食の大切さを指導していきたい。	○健康、安全については、日頃から安全指導、健康指導を適切に行うことが大切だが、家庭の中でもしっかりやっていただきたい。 ○食育、しっかりお願いします。	規則正しい生活習慣、健康な身体づくりのために、学校保健委員会の更なる充実を図る。朝食の摂取率や睡眠時間の確保などの取組を継続していく。
保健管理		子供の病気やけがなど適切な処置や指導を行い、家庭連絡ができています。	けがや体調不良への対応、早退生徒への家庭連絡など、職員間で連携し迅速に対応することを徹底した。			
保健管理		健康診断関係では、事前指導および事後指導も確実にしている。	保健日より等により家庭へ連絡をした。また、学級担任や部活動顧問とも連携して、事後指導の徹底を図った。			
保健管理		学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。	健康観察等による徹底した取り組みができた。フォーム等による欠席連絡方法等を用い効率化を図った。			
保健管理		学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われた。	安心安全な給食を実施することができた。また、アレルギー対応等の職員研修を実施した。			
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え、進んで自己の確立に取り組む生徒を育成するため、教科指導の充実を目指した校内研修を推進する。</li> </ul>	各教科・分掌で計画的に研究・研修を進め、教育課題の改善に努めている。	各教科での教材研究や授業研究を行っている。「わかる授業」の実践を行っている。	研修の時期や内容を、実態に応じて検討し、年間予定を考え計画的に実施していく。若年層教員の増加に伴い、若手の先生方の力量を高めることが必要であり、若年層研修を充実させていきたい。	教師にとって一番大切な教科指導力を向上させるための研究・研修の充実を図る。	必要な研修内容を考え、よりよい研修になるよう工夫する。オンライン授業を充実させるための研修を行う。
研修		日常の教育活動に生かすことができる研修を計画することができる。	研修内容の充実と精選をする必要がある。また、各自が研究・研修することにより高みを目指すことが必要である。			
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域・保護者への情報提供を積極的に進め、地域・保護者との連携を深める。</li> </ul>	地域・PTAとの連携が図られている。	PTA、連合町会や社会福祉協議会など、積極的な協力がある。	地域団体、PTAに支えられ、地域との連携が図られている。また、コミュニティスクール関連の取り組みに力を入れる。	社会福祉協議会が中心となり、学校と連携した地域行事等への中学生のボランティア活動は有意義である。	積極的に地域に貢献できる中学生になるよう、ボランティア活動をはじめ地域での活動に参加できる体制をつ
保護者		学校から、保護者や地域への情報発信を積極的に行っている。	学級・学年・学校だよりの読みやすい工夫することを意識した。			

地域との連携		保護者や地域からの要望に、適切に対応している。	要望に対しては丁寧に迅速な対応を心がけた。	生徒が地域の一員としての自覚を高められるようにしていきたい。また、保護者からの意見や要望に対して組織で対応できるようにしていく必要がある。	行事がなくなると地域の子供の成長がみられなくなってしまう。進路相談等は学校からも積極的に情報を発信したほうがよい。	くっていく。進路相談等も積極的に情報を発信するようにする。
特別支援教育	・特別な教育支援を必要とする子供の理解と指導・支援の協力体制をつくる。	特別な教育支援を必要とする生徒への支援体制が整備されている。	特別支援教育コーディネーターを中心として体制を整え、関連機関と連携を図っているが、支援を要する生徒への対応が難しい事例もある。ただ、校内委員会を設置し定期的に会議を実施していることから当該生徒やその保護者へのアプローチ等徐々にその成果が表れている。	特別支援教育に対する認識を深め、専門性の向上に努め、通常学級に在籍している配慮が必要な生徒への指導や支援が適切にできるようにする必要がある。通常学級の生徒と特別支援学級の生徒とのよりよいかかわり方を考え、交流学习を計画的に進めていきたい。	発達障害など、配慮を要する生徒がいることで先生方の対応の難しさを感じる。研修等で知識も高めてほしい。通常学級との交流をしてインクルーシブ教育を充実させていきたい。	通常学級に在籍している配慮が必要な生徒について、特別支援コーディネーターを中心に関係機関とも連携をして支援体制を整える。特別支援学級の生徒の実態に応じて、通常学級との交流を進めていく。
		合理的配慮が必要な生徒に対する配慮事項が職員に周知されている。	合理的配慮の提供が十分ではなく、合理的配慮について教職員が十分理解できていない。			
		交流学习が計画的に行われている。	特別支援学級の生徒の学校行事等での交流は行われているが、通常授業での交流学习が少ない状況である。			
施設設備・環境	・施設設備の有効活用と教育設備や環境の充実を図る。	教職員一人一人が、担当する施設設備を把握し、鍵の管理や点検を日常的に行っている。	定期的な点検を実施し、鍵等の適切な管理を徹底した。	危険箇所等がないか、常に意識をもって日々の安全点検等に努める。修繕箇所は教育委員会と相談しながらできるだけ早く対応する。生徒の委員会活動とおして、自らの生活・学習環境の向上を図る。	清掃や修繕が行き届いているように感じた。その他にも老朽化がみられるところは改修や修繕をお願いしたい。教室の掲示物がとても工夫されている。	計画的に修繕を行っていく。日々の点検を行い。敷地内すべての環境整備ができるよう取り組んでいく。
		よりよい学校環境や生活環境を目指した整備が行われている。	全学年教室に電子黒板が設置され活用しているが、教科の偏りが見られる。施設設備面は老朽化が進んでいるので、少しずつ修繕している。教室の掲示物などを工夫し、よりよい学習環境に努めた。			
		施設設備の留意事項を守り、使用後の整理整頓が確実に行われている。	後片付け、使用後の整理整頓を徹底しているが、不要物がまだ多い状態が課題である。			
	・学校いじめ防止基本方針を策定し、いじめ防止について、組織的に取り組んでいる。	学校いじめ防止基本方針の内容が、全職員に周知されている。	いじめ防止基本方針の確認し、いじめへの対応を徹底し共通理解している。毎年見直しをしている。	「情報モラル集会」を行い、本校の「いじめ撲滅宣言」に繋げていけるよう試みた。	いじめへの対応は、学校はもちろん家庭、地域がそれぞれの立場でいじめを見逃さない	教育相談やアンケートの実施などにより、いじめの早期発見に努め、いじめの芽を摘む

いじめ防止		いじめの早期発見、早期対応を図ることができる体制が確立されている。	いじめアンケートの実施、教育相談週間の設定、チャンス相談などを通して、いじめの早期発見、早期対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ撲滅宣言」が生徒にさらに浸透する取り組みを進めていきたい。</li> <li>「いじめ」については、早期発見・早期対応・早期解決できるように「報告・連絡・相談」を徹底するよう、初若年層を中心に声かけを行った。</li> </ul>	対応が大切である。	とともに、いじめに対しては適切に対応する。
道徳指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と生徒および生徒相互のよりよい人間関係を深め、道徳的心情と判断力、実践力を育てる。</li> </ul>	道徳の授業を計画的に実践している。	道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をととして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。	道徳の授業研究や研修を充実させる。道徳の授業時数の十分な確保する。また、考え議論する授業を展開する。年間で複数回、道徳の授業研究を行い、道徳への理解を深めたい。	人と人との対話や情操教育が大切である。道徳の授業だけでなく、あらゆる活動をととして道徳的な気持ちを育ててほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業研究や研修を行い、授業時数を確保し計画的に取り組んでいく。教育活動全体で道徳的心情を育てていく。</li> <li>考え、議論する道徳を実践していく。</li> </ul>
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が意欲的、主体的に学校生活を送れるような活動の充実を図り、自治の力を育成する。</li> </ul>	生徒会活動(全校評議会、生徒会行事および準備)は生徒の主体的活動が促されている。	全校評議会や専門委員会で職員生徒共にアイデアを出し合って取り組んだ。生徒の自主性を生かした活動ができるように、さらに活発なものになるようにしたい。	集会や行事、委員会活動などを生徒に考えさせ活動させるためには十分な時間が必要になるので、時間の確保を工夫する必要がある。今年度は、部長会議を定期的に行い、月毎の重点的な活動を活発に行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会、部活動の時間の確保は大変だと思う。生徒の自主性を伸ばすために先生方には見守っていただきたいと思う。</li> <li>生徒主体の活動になりますよう、指導をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動では、引き続きリーダーの育成を図り、教師は準備やリハーサルにおいて指導し、本番は生徒たちで作り上げていく行事を実感させたい。</li> <li>部活動は、生徒の成長にも大きく影響を与えるので、活動内容を少しでも充実できるようにしていきたい。</li> </ul>
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級での活動を基盤として、学級への所属感や連帯感を育て自治的集団としての向上を目指す。</li> </ul>	学級の中で個々の生徒に、存在感をもたせる工夫をしている。	生徒一人一人に役割や活動の場を与えたり、掲示物を工夫をしたりしている。	行事や学級活動では、協力・団結力により取り組むよい雰囲気がある。これからも、生徒一人一人を大切に、学級の一員としての所属感を自覚できるよう工夫していく。	授業参観時に拝見した教室環境や生徒の雰囲気がとても落ち着いていた。引き続き学級づくりをお願いしたい。	よりよい学級活動ができるよう、学級計画を立てる。学級の独自性と学年での共通の取り組みをバランスよく取り入れる。